

タケちゃんとやまさんの

## 渡りゆくタカを識別する

Text&Photo 三浦半島渡り鳥連絡会

### 「あざ笑うタカたち（後編）」

インドアでやまさんからタカの渡りについて手ほどきを受けたタケちゃん。さっそく、やまさんのホームグラウンドである武山に行って飛んでいるタカの識別にチャレンジすることにしたのだが…

< 紛らわしい組み合わせ オオタカ幼鳥とサシバ幼鳥 >

**やまさん**：さあ、ここが山頂の展望台だよ。

**タケちゃん**：うわー、見晴らしがいいんですね。向こうの山の上で旋回している大きいタカは、3羽ともトビですね。

**やまさん**：そうだね。尾が長くて、バチ型をしていて、旋回半径も大きくてゆったり飛んでいるね。

**タケちゃん**：このカタチをよく覚えておくと、ほかのタカと区別がつきやすくなるんですね。

**やまさん**：その通り。トビの動作を含めてじっくり観察しておくこと。あれ？いつの間にかほかのタカが1羽混じって一緒に旋回しているよ。

**タケちゃん**：えっ、ホントだ。大きさはハシブトガラスくらいの茶色っぽいタカですね。サシバかな？

**やまさん**：翼の後縁の形をよく見て。サシバだとそこは直線的で前縁の線と平行っぽく見えるけど、こいつは随分膨らんで出ているよ。

**タケちゃん**：なるほど、翼の形が違いますね。翼開張はサシバと同じくらい、ということは、オオタカの幼鳥！？

**やまさん**：正解！オオタカの成鳥の下面は白っぽいけど、幼鳥は全身茶褐色でサシバと混同しやすいから注意が必要なんだ。旋回を止めてこっちに向かって飛んで来るけど、はばたきのスピードもサシバと比べると細かくて速いでしょ。



写真：翼が細いサシバ幼鳥(左)と後縁が膨らむオオタカ幼鳥(右)

**タケちゃん**：ホントだ。あれ、どんどんこっちに来ますよ。あっ、今、目が合っちゃった！

**やまさん**：目の色を見た？オオタカの虹彩は黄色っぽいけど、サシバの幼鳥は暗色だからそこでも区別できるよ。オオタカは幼鳥でも鋭い目つきだけど、サシバは優しい印象だね。

< 紛らわしい組み合わせ ハチクマとノスリ >

**やまさん**：ちょっと遠いけど、向こうの稜線の上にタカが1羽回転しているよ。

**タケちゃん**：あのトビより一回り小さいやつですね。翼の幅がけっこう広めで、尾が扇状に開いているということは、もしかしてハチクマ？

**やまさん**：残念！実はこいつはノスリだよ。遠くを飛んでいるノスリはハチクマと誤認されるケースが多いから細心の注意が必要なんだ。翼の形とかそっくりに見えてしまうからね。ポイントは横から見た時の頭部の突出具合で、細長く突き出していればハチクマで、丸くつぶれて首が太く見えればノスリだよ。



写真：頭部が細く長いハチクマ(左)と太く短いノスリ(右)

< 紛らわしい組み合わせ ハイタカ属 >

**タケちゃん**：ノスリがハチクマに似ているとは意外ですね。ほかのタカ同士で紛らわしい組み合わせってあるんですか？

**やまさん**：いっぱいあるよ（苦笑）。中でもさっきのオオタカの仲間であるツミとハイタカはもっとも神経をすり減らす識別の難しい種類だね。それらハイタカ属は よりの方が大きくて、例えば、ツミの とハイタカの では体長がオーバーラップすることがあるから、大きさだけでは判断できない。飛翔スピードは速くて、渡りの観察中にはあっという間に通過してしまうことも多いから、なかなかじっくり観察できないけど、頭上で回転してくれるチャンスに恵まれれば、まずは翼先に注目してほしいね。初列風切の分裂枚数はツミが5枚でハイタカが6枚だけど、実際の観察では練習した上でよほど神経を集中させて凝視しないとそこまで数えられない。

**タケちゃん**：写真を撮って後で検証するには有効でしょうけどね。

**やまさん**：そう。そこで、その初列風切のうち、より長く突出している枚数はツミが3枚、ハイタカが4枚なんだけど、その枚数を数えるのではなくて、その枚数分の幅が狭いか広いかで識別の目安にできるんだ。つまり、狭ければツミで、広ければハイタカ。風切1枚分の差だけど実際これが大いに識別に役立つから試してみて。もちろん胴がスマートで尾が長いハイタカと若干太めで尾も短めのツミといった特徴と合わせて総合的に判断する必要があるけどね。

**タケちゃん**：10年くらいかかるつもりで習得します（苦笑）。



写真：初列風切の突出部全体の幅が狭いツミ(左)とやや広いハイタカ(右)

**タケちゃん**：オオタカとハイタカの違いはどこですか？

**やまさん**：一般的な個体同士で言うと、胴がスマートで尾が長く角尾のハイタカと、胴が太くがっちりした体格で尾の付け根が特に太く丸尾のオオタカってところかな。頭部は両翼前縁を結ぶ線より突出が小さいのがハイタカで大きいのがオオタカ。でも のオオタカと のハイタカでは体長やそうした特徴にあまり大きな差がない場合もあるから注意しないとイケないね。

**タカの声**：(上空から)「キー、キィーキキキキ」

**やまさん**：あれっ、今の聞いた？ あの声はツミだよ。

**タケちゃん**：あんな甲高い声で鳴くんですか。でも尻下りで特徴のある声ですね。

**やまさん**：渡りの時期に聞くことがあるし、ハイタカやオオタカはキキキキやケケケケとかほとんど連続音しか出さないから識別するのに有効だよ。どこにいるのかな・・・いたっ！

**タケちゃん**：どこですか？あのトビにからみながら高いところ飛んでるやつですか？

**やまさん**：やってる、やってる。ああやって、ほかのタカにちょっかいを出しながら飛んでいるのをツミではけっこう見るんだ。

**タケちゃん**：けっこう、血の気が多いんですね。

**やまさん**：それから、見てみて。ツミは旋回する時、尾を全開にして扇状に開いているね。これはまだ研究中なんだけど、ハイタカはどうも全開にすることはほとんどないような気がするんだ。

**タケちゃん**：そんなところに違いがあるんですか。よく観察すれば新たな識別点が見付かるかもしれませんね。気を付けてみます！

---

(日本野鳥の会神奈川支部報「はばたき」No. 400「渡りゆくタカを識別する」を改変)

(参考資料)

図鑑日本のワシタカ類．森岡照明・叶内拓哉・川田隆・山形則男．文一総合出版

神奈川猛禽類レポート．神奈川野生生物研究会．夢書房

タカの渡り観察ガイドブック．信州ワシタカ類渡り調査研究グループ．文一総合出版

タカの渡り 2000．タカの渡り全国集会 in 信州 2000 実行委員会．信州ワシタカ類渡り調査研究グループ

2006.08 (C)三浦半島渡り鳥連絡会